○房州御殿山のシダ （行方富太郎・倉田悟） Tomitaro NAMEGATA and Satoru KURATA: Ferns of Mt. Goten-yama, Chiba Prefecture.

房総半島の加茂川地溝帯以南は長狭高校の浅野貞夫氏等により着実に植物調査が行われて来たが，まだまだ未知の事実が数多く秘められているらしい。就中，平群，丸両村境にどつしりと構えた御殿山（海抜 363.9 m）は四周に深い渓谷を巡らし，丸村の経塚山（海抜 310.7 m）と共にそのフロラは多大の興味を持たれ乍ら，今日迄殆んど訪れる人もなく放置されていた。しかるに 1951 年の晩秋，行方はこの御殿山にホソバイヌワラビを見出した[1]。同種はかつて鈴木治太郎氏により一度清澄山で採集された事はあつたが[2]，戦後の自生地確認としては御殿山が半島内唯一のもので，私達は益々その調査に希望を深めた。かくして，1953 年 11 月始め主基村白滝不動から曾呂村を経て丸村に出た二人は丸山川の溪流を賞し乍ら南下し，最大目的たる御殿山東麓の一支谷に足を踏み入れたのはもう午過ぎであつた。その日曾呂村でも一株見出したナンカイイタチシダ（*Dryopteris Yabei* form. *Ogawai* H. Ito）が，この谷の一岩壁に十数株群生していたのには先ず度膽を抜かれた。次いでイワヤナギシダ（*Loxogramme salicifolia* Makino）の豊富な生育に遭遇した。イワヤナギシダの自生も従来半島内では清澄山の寺附近に知られていたのみだが[2]，今回の採集行により東条村保台にもその産が判明した。御殿山の自生地は今迄採集の手が入つていないだけに実に見事な生育を示していた。又キヨスミシダ（*Polystichum tsus-simense* J. Sm.）に混つてオオキヨズミシダ（*Polystichum Mayebarai* Tagawa）が採集出来る。後者は主基村白滝不動にも自生し，半島内の分布区域が相当拡大された訳である[3]。さて，この谷の奥でウラボシノコギリシダ（*Athyrium Sheareri* Ching）の大群落を発見した事は特筆大書に値しよう。溪側斜面の杉林床が相当大面積に本羊歯一色の純群落に被われ実に壮観である。従来知られた半島内唯一の自生地たる清澄山の本羊歯が絶滅に瀕している現在[4]，この御殿山における旺盛なる自生地の発見に二人が大喚声を挙げた事は記す迄もない。ウラボシノコギリシダは往々大群落をなすが，之は根茎による繁殖の盛んなる事に基因し，特に分布の北限近くでは自生地が極めて離在し，胞子による繁殖能力の乏しい事が想像される。丸村御子神の路傍岩壁にビロウドシダ（*Neoniphopsis linearifolia* Nakai）が着生していたが，房総半島では三石山，主基村，曾呂村等に限られた生育を示し，多分石灰分の多い基岩に関係ある自生地であろう。最後に丸村石堂寺附近の崖には随所にハチジョウカグマ（*Woodwardia orientalis* var. *formosana* Rosenstock）が垂下し，従来，北条地溝帯以南の半島最南部にのみ判明していた本羊歯自生地の北進を確認したのも大収獲であつた。以上僅々数時間の採集でその日の中に館山経由帰京したのであるから，御殿山フロラの全貌探求はまだ之からで，同好諸氏の探訪を願う事大である。

(1) 行方沼東，安房国御殿山羊歯採集記（下総植物同志会々報 No. 1, 1952）
(2) 倉田悟，千葉県の羊歯類 (2)（植物趣味 No. 45, 1951）

(3)　倉田悟，北陸のオオキヨズミシダ　(北陸の植物 II—4, 1953)
(4)　倉田悟，ウラボシノコギリシダの分布　(日本シダの会々報 No. 5, 1953)

In the Bōsō Peninsula, Central Japan, the southern part of it, south of the Kamo River has been botanically studied by Mr. Asano and others for many years, but still has many places unvisited by any plant collector. Mt. Gotenyama, 363.9 m in height, situated in the center of this area, is one of them. It is one of the highest mountains in this area and surrounded by deep valleys. Recently, the authors have found *Arabis serrata* var. *japonica* Ohwi, *Sedum abloroseum* Baker, *Athyrium iseanum* Rosenstock, *A. Sheareri* Ching, *Dryopteris Yabei* form. *Ogawai* H. Ito, *Loxogramme salicifolia* Makino, *Pyrrosia linearifolia* Ching and *Woodwardia orientalis* var. *formosana* Rosenstock, all of which are very rare species in the Bōsō Peninsula. Among them, *Athyrium Sheareri* Ching, are found in large community growing on the floor of the artificial *Cryptomeria* forest. In Kantō District, this fern has been collected only at Takatenjin of Mt. Kiyosumi, where we can see now only a desolate habitat of it owing to the felling of the forest.

○奥武蔵のミヤコイヌワラビとミヤコヤブソテツ (倉田 悟) Satoru KURATA: *Athyrium frangulum* Tagawa and *Cyrtomium Fortunei* var. *intermedium* Tagawa collected in Oku-musashi, Saitama Prefecture.

標題に掲げた2羊歯はその和名の示す如く何れも古き都，京都附近で発見され田川基二氏の命名記載により世に出たものである。しかるに最近になつてこの両種共新しき都，東京附近にも自生する事が判明して来たのは面白い縁である。ミヤコイヌワラビは1933年の記載発表の時既に伊豆天城山に分布する事は明らかにされていたが，東海道地方には大変稀少のシダの様で未だ伊豆以外に静岡・愛知両県下に採集された記録を知らない。況んや関東地方には全く縁のないシダの一種と考えていた。所が1953年6月中旬東京西北方のハイキング地帯として有名な奥武蔵の中でも，訪れる人の少い名栗村の蕨山に源を発するその名も狼窪という深山の渓流沿いに，ミヤコイヌワラビの水々しい姿を見出したのだから吾が眼を疑うばかり驚いた訳である。海抜高も 600 m を超す地点で附近は全く温帯性植物を見るだけで，僅かにシケチシダが暖地の片影を見せるのみといつた所である。しかし良く考えて見れば，もともと本羊歯は比叡山のかなり高所を type locality とし，決して暖帯林特有の種類ではない。唯深山の濕潤な環境を好む事は近縁のホソバイヌワラビより更に著しいと思われる。今後関東・東海両地方の深山(といつても勿論海抜 1000 m 以下)にその新産地追加が期待される。尚奥武蔵のミヤコイヌワラビは上面より見ると葉面の中軸が紫色を呈するに対し，葉柄は上部を除き紫